

社会的態度に関する一研究

— (1) *Stereotypes* を通して見た文化変容^{*} —

原 一 雄

I 問題

国際的視野に立って行われるべき民主教育に於て、民族的偏見が如何に国際間の相互理解と社会事象の適確な判断の妨げになっているかという事実は、世界平和を念願する我々の深く憂うる所である。特に民族的偏見が *stereotype* 化する時、すなわち現象学的に認知された民族的・文化的差異に対して、範疇の単純化と特定概念の汎化の結果から、或る種の（概して望ましくない）固定観念が植えつけられる時（原谷，1960），この範疇に結びつけられた信念の誇張が当該範疇に関連するところの行為を正当化する作用をなし（Allport, 1960），この合理化に伴う悪影響は、社会事象の認知と伝達のみならず、更に参与する個人の性格形成に際限なき悪循環を作り出していく。

この民族的 *stereotypes* に関して今迄になされた研究の多く（例えば古典的研究として Katz & Braly, 1933 ; Edwards, 1940）は、すべて多数民族（一国中の主要構成民族）の集団を対象としているが、上述の *stereotypes* の持つ個人の性格へ及ぼす力動的機構は、同じく一国中の少数民族の性格形成にも宛嵌まり、表現される偏見の形式こそ異れ、同種の心理的適応作用の働いていることが明らかにされた。（Hara, 1961）

先にアメリカ西海岸で日系人学生を対象として施行された *stereotypes* の研究の追試として、本研究は日本滞在中の米・中両国人学生の持つ民族

* 本研究の一部は日本社会心理学会第2回大会に於て報告された。

的 stereotypes を調査し、社会態度を通して見られる文化変容と、少数民族集団の持つ stereotypes の特徴的性格を、文化間並びに集団間の比較から捕えようと試みた。

II 方 法

被調査群： 国際基督教大学在学中の日本人学生82名、米国人学生25名、及び中国人学生22名の3群が用いられた。

又米国カルフォルニア州在住の日系人学生103名、並びに同地米国人学生113名の2群より得られた資料（Hara, 1961）を比較研究の為に引用した。

調査方法： 昭和36年6月、日英両国語で書かれた質問紙を使用した。質問紙への記名は随意である。

各被験者個人に対し、Table 1 に掲げられた60項目の形容詞の中から、日・米・中国人の各民族的特性を表すに適切と思われるもの夫々10項目を選び出させ、特徴の著しいものから順に1から10までの番号を附けさせた。ここに使用した性格特性60項目の選定方法は Hara (1961) に従った。

整理方法： 各性格特性の項目毎に、各民族集団（日・米・中）に対する各被験者群（同じく日・米・中）の与えた評定順位の分布を求め、1位に選ばれた場合を10点、2位を9点、以下10位1点まで夫々各順位に点数を与えた上分布の平均を求め、それらを各被験者群の各民族集団に与える stereotypes の明確度とした。

更に60項目中明確度の高いものから順次20項目を選び出し、これらを或る被験者群の或る民族集団に対して抱く *Modal stereotypes* として本研究の基本資料とした。

尚 modal stereotypes として選ばれた20項目の内、他の modal stereotypes との間に共通した性格特性が幾つか存在する場合、その共通項目の数を以って両方の modal stereotypes 間の類似性を示す。

Table 1. Stereotype terms used for describing personal characteristics.

攻撃的	Aggressive	票軽な	Humorous
野心的	Ambitious	理想家的	Idealistic
芸術的	Artistic	独立的	Independent
騒々しい	Boisterous	勤勉な	Industrious
陽気な	Care-free	理性的	Intelligent
用心深い	Cautious	親切な	Kindly
清潔な	Clean	指導者追従的	Leader-following
競争的	Competitive	忠節な	Loyal
自信のある	Confident	物質的	Materialistic
良心的	Conscientious	清楚な	Neat
安心自得の	Contented	卒直な	Outspoken
協力的	Cooperative	忍耐強い	Patient
礼儀正しい	Courteous	愛國的	Patriotic
独創的	Creative	進歩的	Progressive
軽信的	Credulous	鄭重な	Polite
教養ある	Cultured	高慢な	Proud
悠長な	Easy-going	静かな	Quiet
経済的	Economical	宗教的	Religious
教育のある	Educated	丁寧な	Respectful
利己的	Egoistic	性急な	Pushing
精力的	Energetic	真心ある	Sincere
熱狂的	Enthusiastic	社交的	Social
家族団結的	Family-tie	克己的	Stoic
自由愛好的	Freedom-loving	服従的	Submissive
友情のある	Friendly	儉約家	Thrifty
寛大な	Generous	慣習的	Traditional
気楽な	Happy-go-lucky	誠実な	Truthful
健康的	Healthy	不健康な	Unhealthy
正直な	Honest	不信用な	Untrustful
謙遜な	Humble	引込み勝な	Withdrawal

III 結 果

日本在住の日・米・中国人学生各群が夫々日・米・中国人に対して抱く modal stereotypes と、そこに含まれる項目の明確度が Table 2-(a)～(i) に、又在米の日系人及び米国人学生が日本人並びに米国人に対して抱く modal stereotypes と明確度が Table 3-(a)～(d) に示されている。

Fig. 1 は Table 1-(a)～(i) 間、又 Fig. 2 は Table 2-(a)～(d) 間の各被調査群による、各対象民族集団の modal stereotypes 間に表れた類似性を図示したものである。

Table 2-(a). Japanese modal stereotypes as judged by Japanese.

Industrious	5.30
Traditional	4.69
Withdrawal	4.21
Family-tie	3.45
Patient	3.37
Leader-following	2.98
Cautious	2.74
Courteous	2.18
Submissive	2.03
Humble	1.89
Egoistic	1.62
Educated	1.39
Artistic	1.32
Credulous	1.27
Kindly	1.26
Competitive	1.23
Polite	1.07
Clean	1.06
Quiet	1.00
Loyal	.90

Table 2-(b). Japanese modal stereotypes as judged by Americans.

Courteous	4.46
Industrious	4.33
Polite	3.50
Artistic	3.37
Family-tie	2.83
Creative	2.21
Educated	2.17
Intelligent	2.08
Respectful	2.08
Honest	1.79
Clean	1.42
Quiet	1.42
Thrifty	1.42
Friendly	1.33
Patient	1.33
Loyal	1.25
Traditional	1.17
Generous	1.08
Cautious	1.04
Conscientious	1.00
Sincere	1.00

Table 2-(c). Japanese modal stereotypes as judged by Chinese.

Enthusiastic	3.52
Industrious	3.33
Leader-following	3.14
Energetic	3.09
Artistic	2.57
Submissive	2.47
Patriotic	2.28
Family-tie	2.23
Clean	2.09
Educated	2.09
Polite	1.91
Friendly	1.86
Courteous	1.85
Independent	1.48
Progressive	1.38
Cooperative	1.33
Confident	1.14
Humble	1.05
Cultured	.95
Idealistic	.95

Table 2-(d). American modal stereotypes as judged by Japanese.

Social	5.30
Care-free	4.39
Outspoken	3.92
Confident	3.49
Independent	3.44
Happy-go-lucky	3.21
Energetic	2.52
Freedom-loving	2.48
Materialistic	2.34
Cooperative	2.08
Humorous	2.06
Friendly	1.93
Patriotic	1.84
Boisterous	1.39
Healthy	1.29
Enthusiastic	1.09
Ambitious	1.05
Easy-going	.98
Proud	.82
Kindly	.79
Contented	.79

Table 2-(e). American modal stereotypes as judged by Americans.

Friendly	4.52
Competitive	3.64
Ambitious	2.88
Outspoken	2.72
Freedom-loving	2.68
Confident	2.64
Social	2.48
Materialistic	2.37
Energetic	2.17
Independent	1.88
Generous	1.80
Clean	1.68
Patriotic	1.40
Egoistic	1.40
Educated	1.36
Aggressive	1.36
Humorous	1.20
Industrious	1.12
Cooperative	1.08
Honest	1.08

Table 2-(f). American modal stereotypes as judged by Chinese.

Friendly	3.82
Easy-going	3.78
Social	3.78
Freedom-loving	3.68
Independent	3.41
Energetic	3.37
Confident	2.41
Outspoken	2.28
Progressive	2.18
Healthy	1.77
Proud	1.77
Enthusiastic	1.73
Creative	1.64
Carefree	1.55
Humorous	1.46
Materialistic	1.45
Ambitious	1.36
Kindly	1.36
Competitive	1.18
Happy-go-lucky	1.09

Table 2-(g). Chinese modal stereotypes as judged by Japanese.

Patient	3.80
Industrious	3.23
Energetic	2.98
Family-tie	2.84
Cautious	2.82
Competitive	2.36
Ambitious	2.32
Patriotic	2.08
Economical	2.08
Egoistic	1.79
Traditional	1.60
Thrifty	1.60
Friendly	1.43
Confident	1.33
Cooperative	1.24
Aggressive	1.03
Proud	1.03
Easy-going	.99
Care-free	.94
Enthusiastic	.93

Table 2-(h). Chinese modal stereotypes as judged by Americans.

Intelligent	3.33
Ambitious	3.28
Friendly	3.12
Patient	2.78
Family-tie	2.67
Industrious	2.62
Proud	2.50
Artistic	2.17
Sincere	2.12
Educated	1.89
Enthusiastic	1.89
Traditional	1.83
Conscientious	1.67
Energetic	1.50
Confident	1.45
Quiet	1.39
Polite	1.28
Courteous	1.22
Cultured	1.17
Idealistic	1.17

Table 2-(i). Chinese modal stereotypes as judged by Chinese.

Family tie	5.78
Ambitious	3.45
Industrious	2.78
Cautious	2.62
Independent	2.62
Quiet	2.28
Proud	2.22
Egoistic	1.95
Contented	1.72
Generous	1.72
Traditional	1.72
Friendly	1.61
Economical	1.45
Idealistic	1.44
Competitive	1.39
Humorous	1.33
Courteous	1.33
Boisterous	1.28
Cultured	1.33
Humble	1.28

Table 3-(a). Japanese modal stereotypes as judged by Japanese-Americans in U.S.A.

Ambitious	3.74
Conscientious	3.26
Industrious	3.18
Intelligent	2.88
Clean	2.33
Honest	2.07
Competitive	1.78
Family-tie	1.74
Respectful	1.72
Courteous	1.69
Friendly	1.60
Quiet	1.28
Cooperative	1.21
Proud	1.18
Educated	1.18
Materialistic	1.15
Neat	1.12
Independent	1.12
Artistic	1.11
Social	1.10

Table 3-(b). Japanese modal stereotypes as judged by Americans in U. S. A.

Polite	3.17
Family-tie	3.14
Courteous	3.00
Quiet	2.86
Industrious	2.51
Clean	2.46
Neat	2.31
Conscientious	2.24
Intelligent	2.15
Traditional	2.02
Artistic	1.97
Humble	1.92
Respectful	1.88
Friendly	1.81
Patient	1.51
Creative	1.51
Leader-following	1.36
Cultured	1.17
Proud	1.17
Loyal	1.07

Table 3-(c). American modal stereotypes as judged by Americans in U. S. A.

Freedom-loving	4.00
Aggressive	3.16
Competitive	3.24
Friendly	3.07
Social	2.97
Independent	2.93
Ambitious	2.38
Outspoken	2.28
Materialistic	1.92
Easy-going	1.85
Care-free	1.74
Educated	1.46
Cooperative	1.32
Progressive	1.24
Patriotic	1.18
Confident	1.15
Courteous	1.13
Industrious	1.10
Energetic	1.08
Humorous	.97

Table 3-(d). American modal stereotypes as judged by Americans in U. S. A.

Competitive	5.22
Freedom-loving	5.15
Independent	3.81
Ambitious	3.54
Materialistic	2.72
Aggressive	2.69
Educated	2.44
Proud	2.30
Industrious	2.17
Progressive	1.81
Confident	1.41
Social	1.41
Energetic	1.31
Egoistic	1.17
Patriotic	1.13
Clean	1.02
Friendly	1.02
Religious	1.00
Rushing	1.00
Outspoken	.98

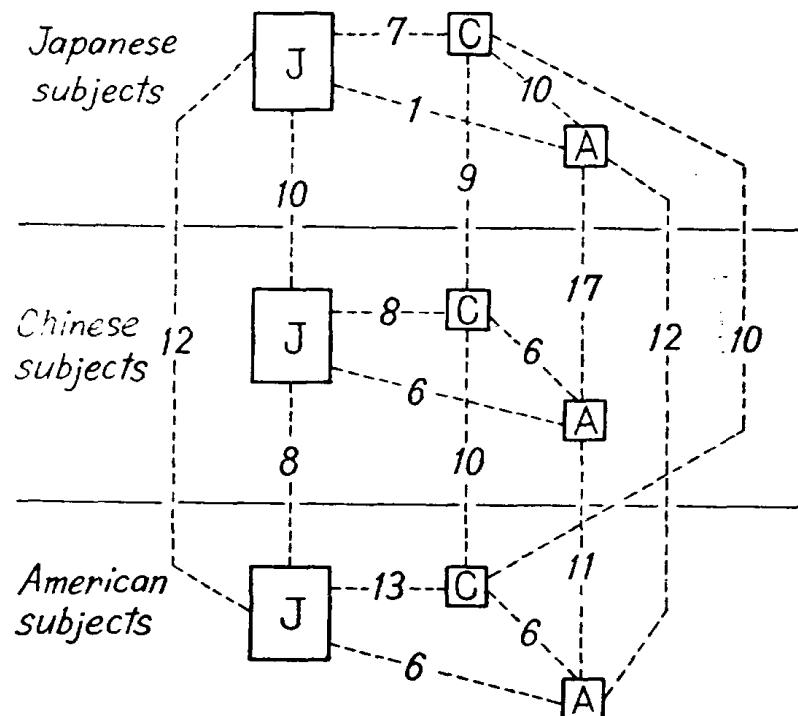


Fig. 1

Number of same stereotype terms used by ICU subjects.

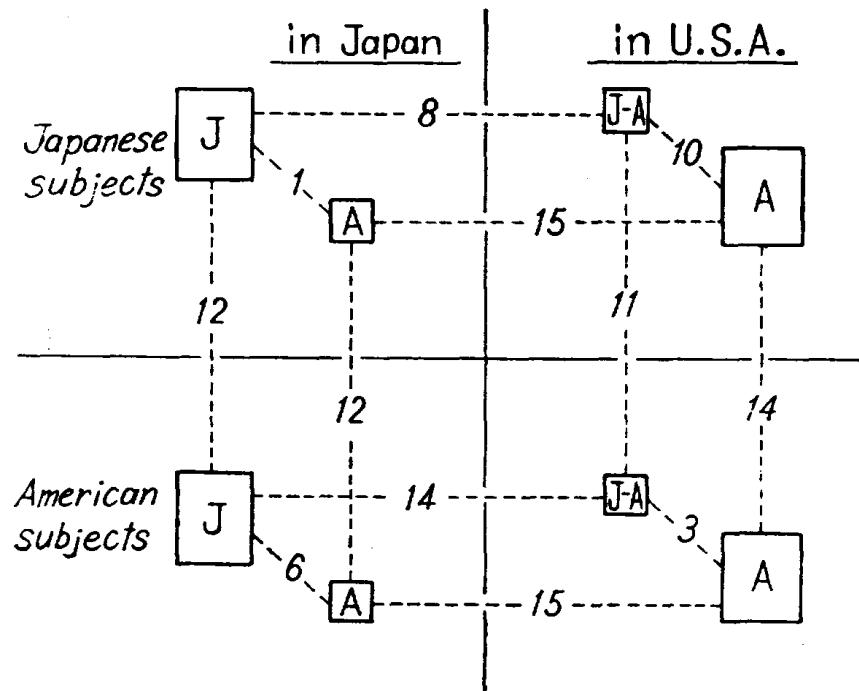


Fig. 2

Similarity of Japanese and American stereotypes.

IV 考 察

民族的 stereotypes

Table 2 及び 3 に示された各民族集団に与えられる modal stereotypes を一覧すると、本研究に用いられる 5 群の被調査集団（日本人、在日米国人、在日中国人、在米日系人、米本人）が共通に使用している項目を幾つか見出すことができる。それらは或る集団の特性と自他共に許しているもので、その真偽はさて置き、これらこそ現象学的に所謂国民性と名附けられて良いものであろう。日本人に対しては「勤勉な」、「家族団結的」、「礼儀正しい」、「芸術的」、「清潔な」、米国人に対しては「自由愛好的」、「独立的」、「社交的」、「友情のある」、「率直な」、「野心的」、「自信のある」、「物質的」、「精力的」、中国人に対しては「家族団結的」、「野心的」、「勤勉な」、「友情のある」、「高慢な」、「慣習的」といった性格が選ばれている。

次に自己が否定をしているが他の凡ての集団が特性と認めているものに、日本人には「友情のある」、在米日系人には「鄭重な」、米国人にとっては本国と在日中とに拘らず「陽気な」、「悠長な」、また本国の米国人に「票輕な」、中国人に「忍耐強い」、「精力的」、「熱狂的」、「自信のある」といった性格が挙げられている。

上とは逆に、自己が特性だと主張しても他の集団がそれを認めないものに、日本人にとって「引込み勝な」、「利己的」、「軽信的」、「親切な」、在米日系人にとって「野心的」、「物質的」、「社交的」、両者共「競争的」、在日米国人にとって「寛大な」、「正直な」、米本人にとって「宗教的」、「性急な」、両者共「清潔な」、「利己的」、中国人にとっては「独立的」、「安心自得の」、「寛大な」、「騒々しい」、「票輕な」、「謙遜な」性格がある。

Stereotype の明確度

ここに使用された stereotype 用語の語義に関する分析は後日に譲り、

次に各調査群相互の評価の信頼性を調べ度い。基準尺度のない stereotype にとっては、集団内被験者間の評価の一致度と、他の集団の評価の類似度が信頼性を知る唯一の手懸りであり、本研究に於いても各被調査群内の各項目に与える明確度をもって前者を示し、また各集団の modal stereotypes 間に存在する共通特性項目の数をもって後者を表した。

明確度に関し二三の考察を行えば次の通りである。もし明瞭な modal stereotypes というものが存在し、しかも各集団毎に夫々10項目でもって要約出来ると仮定すると、1位10点、10位1点の評点法から、当然10項目の明確度は平均5.5を中心に分布するはずである。然るに実際にはこの仮説的平均点を上廻る例として、中国人の自己評価中にある「家族団結的」唯一項目が見出されるのみである。一方もしも modal stereotypes というものが全く存在しないと仮定すれば、60項目は無差別に選択されることになり、各項目の明確度は平均点 55/60、即ち .917 となるべきであり、本研究で得られた上位20項目の大半がこの数値を遙に上廻る所から、一見して第二の仮説も容易に受け入れ難い事が判る。即ち自己並びに他の集団いずれの評価にせよ、或る集団に与える stereotypes は常に一致するとは限らず、むしろその広い変異性にこそ社会態度の持つ特徴が表わされているが、同時にまた選択される特性用語、即ち stereotypes は、可成りの同調性を含む集団独自の構造を持ち、社会態度の分析に重要な役割りをなす信頼性の高い資料であると考えられる。

Stereotype の類似性

斯様な特徴を備えた明確度を基に選択された20項目の民族集団特性相互に見られる共通点は、取りも直さず我々が民族集団に与える stereotype の類似性であり、社会態度の心理的距離と解釈される。先づ在日被調査群について Fig. 1 を手掛りに Table 2 を見ると、次の事実に気附く。日本人は中・米両国人間に強い類似性、即ち10の共通項目を与え、日・米間には僅に1項目しか共通点を見出していない。中国人は三者間に同程度の類似性を認め、米国人は日・中間に可成り強い類似性、即ち20項目中13ま

で共通の特性を挙げている。

各被調査群が夫々選び出した *modal stereotypes* 20項目の間には、日本人について 8 から 12、中国人については 9 乃至 10、米国人には 11 から 17 と非常に強い類似性が見出される。しかも三群揃って指摘している項目が日本人の特性に 7 項目、中国人に 6 項目、米国人に 9 項目と含まれている事実は、上記の民族的 *stereotype* に信頼性が可成り高い事を再び裏書きしている。然しながら、集団間の類似性が最も高い例、即ち米国人から見た日・中両国人に共通な特性 13 項目と、日本人及び中国人が共に米国人の特性として認めた 17 項目は、共にこの例に特殊な条件である洋の東西という文化的差異よりも、かえって民族集団に与える未分化な範疇概念の汎化によるものと考えられる。何故ならこのいずれの場合も、その民族集団が自己に与える *stereotypes* については主観的ながらも弁別が一步進んでおり、共に他と共に共通項目を見出すことが比較的少ないからである。ここに於いて始めて民族偏見としての *stereotypes* の類似性が問題にされ得るわけである。

少數者集団の文化変容

上記の如く、民族集団の *modal stereotypes* が必ずしも共通な認知作用の結果によらぬ場合、当然 *stereotype* を形成する背景の文化環境と、そこに働きかけている動機とが問題にされて然る可である。そこで本研究は、日・米両国人の被調査群が、両国内で夫々多数者民族集団と少數者集団との立場に置かれている事実から、この *stereotype* の中に文化的要素と集団の性格による要素とを分類し、その力動性を調べようと試みた。Fig. 2 はこの関係を図示したものであり、ここでは少數者集団の文化変容が指摘される。

日本人被調査群は、日本に於ける日・米両国人間に共通点が 1 項目しかないと云い、米国人は 6 項目の共通特性を認めている。これは丁度米国に於いて、本国人が日・米間に 3 項目の共通特性を見出しているのに対し、日系人が 10 項目をも認めようとしている点に対応している。これを云い換え

れば、日本に於ける日本人の米国人に対して抱く心理的距離が最も長く、次に米国に於ける米国人の日本人への距離、更に在日米国人の日本人に対する態度、そして在米日系人が米本国人に對して抱く距離が最も短いことを物語っている。前二者は多数者民族集団の少数者集団に対する民族差別の態度であり、後二者は逆に多数者集団に接近しよう、或は多数者集団の特性を自己のものに適応採択して行こうという少数者集団特有の同一視傾向として受け取られる。共通項目数に於いて米国の日系人が在日米国人に優る理由、即ち社会的適応に一層敏感である所以は、後者は飽くまで留学生或は訪問者の立場であるに対し、前者は市民として同じ権利を持ちながらも、人種的に少数者集団を組まざるを得ない事情によるのではないかと思われる。このことは同時に、米国人が日本人と米国日系市民とを非常に似通ったもの、即ち20項目中14まで共通と見ているのに対し、当該者たちは共通特性を8項目に限る理由でもあり、所謂二世タイプと云う第三の性格特性群を形成させているものである。

以上は stereotype の類似性より見た社会態度の文化変容に関し、その力動性的一面を分析したに過ぎず、今後更に stereotype の序述に使用された用語の語義分析と、それらに伴う情動的因子を研究することが望まれる。

(本学講師)

文 献

- Allport, G. W. : *The nature of prejudice*. Cambridge : Addison-Wesley, 1952.
- Edwards, A. L. : *Studies of stereotypes : I. The directionality and uniformity of responses of stereotypes*, *J. soc. Psychol.*, 1940, 12, 357-366.
- Hara, K. : *A study of certain attitude and their personality correlates among Japanese Americans*, *Educational Studies*, 1961, 8, 163-211.
- 原谷達夫・松山安雄・南寛：民族的ステレオタイプと好悪感情についての一考察、*教育心理学研究*、1960、8、1—7。
- Katz, D. & Braly, K.W. : *Racial stereotypes of 100 college students*, *J. abn. & soc. Psychol.*, 1933, 28, 280-290.

A Study of Social Attitude

— (I) Acculturation Observed in Racial Stereotypes —

Kazuo Hara

(English Résumé)

Problem

Racial prejudices have been considered as a chief obstruction for our democratic education and international understanding. When racial prejudices become stereotyped, not only certain unfavorable conceptions are implanted into them, but also these exaggerated ideas foster rationalization of any action realistically or unrealistically relating to them. They, therefore, create a vicious circle between a misperception or misinterpretation of social events and a facilitation of maladjusted personality.

This dynamics of stereotypes upon personality development was found to be quite similar for both majority and minority groups in its motivational causality but diversely different in its social manifestation. (Hara, 1961) Thus, two objectives were sought in this study: what kinds of terms people choose to describe racial stereotypes for Americans and Chinese in Japan, and what sort of characteristics these stereotypes manifest in their processes of acculturation.

Method

This study employed three groups of subjects—82 Japanese, 25 American and 22 Chinese students in ICU. Each subject was tested, using questionnaires in which 10 personality traits out of 60 in a list were selected and ranked according to the degrees of characteristics of an assigned group. Individual subjects responded altogether three times, once for each of the three racial groups. Racial stereotypes were then comprised of the 20 highest traits judged for a certain group by either its own or another group. In addition to

the above, data obtained from Americans and Niseis in the United States were also used for comparison.

Conclusions

1. Modal personality for a certain racial group is recognized as those personality traits which are judged for a group by all groups including its own. (See Table 2- (a) ~ (i), 3- (a) ~ (d).)
2. Remarkably great conformity among subjects within all groups indicates a high degree of reliability of the method. Distinctiveness of stereotypes, in terms of high conformity scores, also suggests a unique structure of modal personality for each racial group.
3. A number of traits common to two groups is taken as the similarity of stereotypes or psychological distance between them. (See Fig. 1.) Very often similarity is found to be greater between two other groups than between ones own group and another. This fact demonstrates that stereotypy is a product of over-generalization.
4. Similarity of stereotypes between sub-groups in one ethnic group is always greater according to the view of subjects of a minority group than it is of those of the majority. (See Fig. 2.) The mechanism of identification practiced among the members of minority groups is thus witnessed.
5. Lastly, the necessity of a semantic analysis and a study of the affective aspect of stereotypes were mentioned.